

## 編集後記

---

『境界を越えて——比較文明学の現在』は第20号を迎えた。そのことの重要性を、最初は全く意識していなかったのだが、天の配剤というべきか、節目の号にふさわしい内容になったと思う。

まず、今年度で定年退職を迎えられる佐々木一也先生へのインタビュー。比較文明学専攻の創設メンバーとして支柱であり続けてこられた先生の人間の魅力を伝える1本となった。そして、2014年3月に退職された千石英世先生から特別寄稿として頂戴した雄編。いずれも、比較文明学専攻を築いてきた先生方の足跡を再認識するよすがとなり得よう。

優秀修士論文を久しぶりに掲載できたのも喜ばしいことである。さらに、研究交流会の記録2点、大学院学生による書評4点を得て、例年同様のボリュームを充実させることができた。

いっぽうで、会員による論文、研究ノートの投稿も待望される。じつは、これらの区分への投稿がなかったため、前年度にせっき執筆要項が改定されたにもかかわらず、その本格的適用例を示すには至らなかった。修士論文や研究交流会記録に関しては当初の形式を大きく変えることが難しいという事情がある。次号に向けて、諸氏の奮起を期待したい。

最後に、今号の編集についても深澤晃平氏・長田年伸氏にお世話になった。とりわけ深澤氏には、佐々木先生のインタビューや研究交流会記録の整理においてもたいへんご尽力いただいた。例年のない順調な進捗で、編集委員たる私はほとんどタッチせず、「無為の治とはこのようなことか」と妄想したりもしたのだが、事実は当然、執筆者や編集スタッフの真摯かつ迅速な取り組みによりはじめて実現できたことである。改めて、関係各位に深謝申し上げる。

2020年2月

林 文孝